

平成23年度 事務事業評価シート（平成22年度実績分）

事務事業名	夏季大学講座事業費		部課コード	2006	予算事業科目	011007020430	事	単	区分	継続	
所管部署	担当部局	教育委員会	部長名(2次評価者)	松原 和廣		個別事務	全部	011007020430	-		
	担当部署	生涯学習課	所属長名(1次評価者)	秋沢 大助			-				
	電話番号	088-822-6394	E-mail	kc-200600@city.kochi.lg.jp			-				

1 事業の位置付け

予算科目(平成23年度)	高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け										
会計	01 一般会計	大綱	03 育みの環	政策基本方針	経済の発展や高度情報化、少子化・高齢化の進展などによる社会情勢の変化の中、人々は自己の充実・啓発や生活の向上のため、多様な学習の機会を求めています。また、スポーツを通じて健康を増進し、充実した人生を送ろうとする意識も高まっています。すべての市民が豊かな心と健康な体を育み、いきがいのある充実した人生を送ることができるように、生涯にわたって自発的な学習活動・スポーツ活動を行うことができる環境づくりを推進します。						
款	10 教育費	政策	03 いきいきと学び楽しむ生涯学習・スポーツの環境づくり								
項	07 社会教育費	施策	01 生涯学習の推進								
目	02 公民館費	区分	01 公民館活動の推進								

2 事業の根拠・性格

法律・政令・省令	社会教育法第22条	法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等		
その他(計画、覚書等)	95高知市文化振興ビジョン第2章 I-2-(1)	

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	一般市民			
意図	どのような状態にしていくのか	市民の知的開発、教育の向上、情操の涵養を図る。			
手段	事業実施体制等	高知市教育委員会、(財)高知市文化振興事業団、高知新聞社、RKC高知放送の共催により実施。(財)高知市文化振興事業団に事業委託している。			
活動内容	どのような事業活動を行うのか	毎年7月最終週から10日間(土・日曜日を除く)、各界で活躍する著名人10人を講師として、午後6時半から8時までの90分間の講演会を行っている。受講生は、原則として10日間とおしのお申し込みを、10回連続の夏季集中講座を通じて情操を涵養する。			
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		
	A	総入場者数(人)	10日間の総入場者数。市民のニーズをダイレクトに表す。		
	B	受講申込者数(人)	受講票(通し券)の申込者数。全講演を通して考えた場合どの程度魅力的な顔ぶれであるかを表す。		
	C	当日券による入場者(人)	通し券によらず、目当ての講師を聞きに来た人数。夏季大学に対する市民のニーズを表す。		

4 事業の実績等

			20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	総入場者数(人)	10,000	10,000	10,000	10,000		
		実績	11,012	9,952	6,150			
	B	受講申込者数(人)	1,200	1,200	1,200	1,200		
		実績	1,791	1,563	857			
	C	当日券による入場者(人)	200	300	300	300		
		実績	306	222	315			
投入コスト	① 事業費	決算額(千円)	8,359	8,336	7,360	8,049		
		財源内訳	国費(千円)					
			県費(千円)					
			市債(千円)					
			その他(千円)					
			一般財源(千円)	8,359	8,336	7,360		8,049
	翌年度への繰越額(千円)							
	② 概算人件費等	人件費等(千円)	7,500	7,400	7,200	7,200		
		正規職員(千円)	7,500	7,400	7,200	7,200		
		その他(千円)						
		人役数(人)	1.00	1.00	1.00	1.00		
		正規職員(人)	1.00	1.00	1.00	1.00		
		その他(人)						
	総コスト=①+②(千円)		15,859	15,736	14,560	15,249	総コスト/年度末人口	
市民1人当たりコスト(円)		47	46	43				
年度末住民基本台帳人数(人)		340,695	339,714	339,130				

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

○60回を数え市民の間に夏季大学の内容やレベルについての信頼は定着しているが、近年受講券の売れ行きは講師の知名度やマスコミへの露出度(特に直前)に大きく左右される傾向がある。必ずしも「著名講師=良い講演」とは限らない。
 ○さまざまな分野の知識を身につけることにより、情操の涵養を促すというのが夏季大学の理念であるが、近年は興味の対象が細分化し、当日券を買って興味がある講義のみを受講する人が増加している。夏季大学の理念を保ちつつ、こうした傾向にどのように折り合いを付けていくのかということも今後の課題である。

6 1次評価(所属長評価)

評価日(平成23年 9月 6日)

評価項目		評価基準	1次	平均 点数	評価内容の説明
事業実施の 必要性	① [施策体系等での位置付け] 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく	A	4.0	本事業は第一線の講師を招くことにより、市民が様々な分野の最先端の知識を身につけ、市民の知的好奇心を満たすきっかけになるもので、総合計画に掲げる「生涯学習の推進」「公民館活動の推進」に合致している。年により若干の受講者数の増減はあるが、22年度で第60回を迎え、夏の風物詩として市民の間に定着している。
		B (3) 一部結びつく			
		C (1) あまり結びつかない			
		D (0) 結びつかない			
	② [市民ニーズの傾向] 事業の実施に対する市民のニーズ(需要量)の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している	B		
		B (3) 横ばいである			
		C (1) 少ない、減少している			
		D (0) ほとんどない			
事業内容の 有効性	③ [成果の達成状況] 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している	B	4.0	講師の知名度や「旬」により受講者数が増減する傾向があり、予算減により謝金の高い著名講師の招聘が困難になってきているが、アンケートを取るなどして参加者のニーズを満たすプログラムになるよう工夫している。しかしながら、22年度は前年の受講者を大きく下回る結果となった。要因としては受講料のアップや講師の知名度、猛暑の影響等が考えられる。なおアンケートによると、講演に対する参加者の満足度は前年度よりも高いものがあつた。
		B (3) 概ね達成している			
		C (1) あまり順調ではない			
		D (0) 十分な成果を望めない			
	④ [事業の手法・活動内容] 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である	A		
		B (3) 概ね妥当である			
		C (1) 検討の余地がある			
		D (0) 見直しが必要である			
事業実施の 効率性	⑤ [アウトソーシングの可能性] 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない	A	4.0	(財)高知市文化振興事業団に事業委託。
		B (3) 行政主体が望ましい			
		C (1) 検討の余地はある			
		D (0) 十分可能である			
	⑥ [事業統合・連携・コスト削減] 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない	B		
		B (3) 概ね効率的にできている			
		C (1) 検討の余地がある			
		D (0) 十分可能である			
事業実施の 公平性	⑦ [受益者の偏り] 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い	A	5.0	受講券の販売は発売日・時間、発売場所を事前に広報し、誰でも公平に購入できるようになっている。受講料については、広く市民の学習機会の提供と情操の涵養のため、一般財源の負担も一定必要だが、受益者負担の考え方をもとに22年度から受講料を見直した(3,000円→3,600円)。
		B (3) 概ね保たれている			
		C (1) 偏っている			
		D (0) 公平性を欠いている			
	⑧ [受益者負担の適正化] 事業実施の財源として、受益者負担割合(一般財源負担割合)は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である	A		
		B (3) 概ね適正な負担割合である			
		C (1) 検討の余地がある			
		D (0) 検討すべきである			
総合 評価	17.0	総合評価			
		○ A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)			
		B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合)			
		C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合)			
D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)					

7 2次評価(部局長評価)

評価日(平成23年 9月 16日)

総合評価	評価理由・今後の方向性等
○ A 事業継続	高知市夏季大学は、昭和26年の事業開始以来毎年開催し、全国に誇る高知の夏の風物詩の一つとして、市民の生涯学習や知的開発、文化教養の向上、情操の涵養に寄与してきた。平成22年度は、受講料をアップしたことや講師の知名度も影響したためか、受講者数が低迷したが、1次評価にもあるように、受講者のアンケートでは高い満足度であった。今後も、講師の人選はもとより、講師謝金の予算確保、プログラムの工夫等に努め、より多くの市民に生涯学習等の場を提供したい。
B 経費削減に努め事業継続	
C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項

--